

令和 5 年度 墨田区立本所中学校 経営報告書

<p>学校目標</p>	<p>教育目標「心豊かな、たくましい本中生を育成すること」(心豊かに、たくましく)</p> <p>校 訓 「学びあう」</p> <p>豊かな感性と思いやりの心を培う文武両道の学力向上学校を実現します。本校は、人間尊重の精神と社会貢献の精神を基調として、知徳体の志ある人間教育を眼目に、品格ある学校、静かな学校、きれいな学校、そして、今までできなかったことができるようになる学校を具現化します。そこで、持続可能な知識基盤社会において活躍し幸福な百年人生を実現するとともに、心豊かな人間性とたくましく生き抜く力をもった本中生を育成していきます。そのためには、次の言葉を要とします。</p> <p>改革；自己改革の情熱と、向上し挑戦する心 真理；真実を学ぶ心と、誠実な心 和合；和みのある豊かな感性と、思いやりの心</p> <p>さらに、校訓は、「学びあう」です。これからの百年人生で生涯学習の時代において、学びあうことは、生徒の可能性を開花するとともに、どんな困難をも克服して、明るい社会と幸福な人生につながります。</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>〈家庭・地域の願い〉</p> <p>生徒は家庭・地域・学校の宝であり、学校・家庭・地域は生徒の心の故郷です。このことを踏まえ、家庭や地域の願いとして、本中生が、これからの百年人生であり生涯学習の時代において、持続可能で急速に発展する知識基盤社会の中を、知徳体の志をもって生き抜き、進路実現を通して、これからの人生の土台を築くため、学校教育に、「たくましく生き抜く力」の育成を求めています。本中生が郷土を愛し、社会を明るくし、人情味溢れ、生き甲斐をもった、豊かな人間に育つよう期待しています。</p>
<p>目指す学校像</p>	<p>〈品格と活力漲る、明るい(素直、元気、楽しい)文武両道の名門校)</p> <p>(1)よく学習し、学校行事、生徒会委員会活動、部活動の適正に活発な学校</p> <p>①生徒が安心して学習し、落ち着いて生活する、そして、明るく元気に活動できる学校</p> <p>②生徒が目標をもち、自己の能力と創造性の伸長に努めるとともに、毎日、明るく元気に登校できる学校</p> <p>③教職員が仕事に意欲を持ち、情熱を傾け、適正、かつ、活発な教育活動を展開する学校</p> <p>(2)感動する、魅力ある授業の学校</p> <p>①確かな学力と健康な体力を身に付けさせるため、常に充実した授業を実践する学校</p> <p>②学習を通じて感動体験に繋がる、創意工夫に満ち溢れた教育活動を展開する学校</p> <p>③教材教具、指導法の改善工夫により、分かりやすい授業、感動を喚起する授業を実践する学校</p> <p>④生徒の夢や希望と志、可能性を伸ばす学校</p> <p>⑤生徒や保護者が、本校を選択して良かったと思える学校</p> <p>⑥教育環境が整い、清潔さを感じる学校</p> <p>(3)生徒と生徒、生徒と教職員、学校と家庭・地域の間に深い信頼と安心の絆がある学校</p> <p>①体罰の根絶とともに、いじめや不登校等のない学校</p> <p>②保護者が安心して、通わせることができる学校</p> <p>③地域、保護者から、信頼と協力が得られる学校</p> <p>④家庭、地域の教育力を生かす学校</p> <p>⑤教職員が生徒一人一人を温かく見つめ楽しく分かりやすい授業に生徒が目目を輝かす学校</p> <p>⑥秩序と潤いがあり、生徒相互が良き仲間として支え合い、競い合い、励まし合って健やかに、そして、豊かに成長が出来る学校</p>

様式 4

目指す子供像	<p>〈知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒〉</p> <p>(1) 礼節を重んじ、学ぶ心を培い、真剣に学ぶ本中生</p> <p>①授業を大切にし、授業に真剣に取り組む生徒</p> <p>②様々なことに興味や関心を示す生徒</p> <p>③共に学ぶ姿勢のある生徒</p> <p>④自ら目標を設定しよく考え意欲的に学ぶ生徒、すなわち、百錬自得の生徒</p> <p>⑤素直な心、感動する心等、豊かな感性を持つ生徒</p> <p>(2) 他を思いやる、優しい本中生</p> <p>①自他ともに大切にすることをもち、自他の生命を尊重する生徒</p> <p>②感謝、奉仕の心、思いやりの心を大切にし、実践できる生徒</p> <p>③生徒会活動、委員会活動、係活動、当番活動、部活動等、主体的に責任をもって行う生徒</p> <p>④学校行事や体験活動等を通じて、集団や他人と適切に関わる力、コミュニケーション能力を身に付けた生徒</p> <p>⑤時間、服装、身だしなみ、挨拶、時と場と状況に応じた適切な言動等、基本的な生活習慣を身に付けた生徒</p> <p>⑥暴力否定等、規範意識をもち、学校生活・社会生活のきまり、マナーの意義を理解して、実践する生徒</p> <p>(3) 心身を鍛え、健やかな本中生</p> <p>①健やかで丈夫な体づくりに励む生徒</p> <p>②困難に挫けない、チャレンジ精神のある生徒、すなわち、不撓不屈の生徒</p> <p>③適切な内容と方法において、「努力・根性・ど根性」を発揮し、今まで出来なかったことが出来るようになった自己有用感を満面の笑顔で友と喜び合える、明るく元気な生徒</p>
目指す教師像	<p>〈ともに学ぶ教師、生徒とともに、互いの教師とともに、家庭・地域とともに〉</p> <p>《師弟同行の実践教師を目指します》</p> <p>(1) 使命感と情熱をもち、すべての生徒を伸ばし、生徒の豊かな成長のために惜しみない教育活動を展開する教師</p> <p>(2) 「学ばざる教師、教えるべからず」を教訓として、自ら指導力を高め、常に相互に研鑽を積む教師</p> <p>(3) 協働して、全教職員による組織的な指導体制を構築することができる教師</p>

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	○確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	<p>保護者による肯定的評価は63%、否定的評価は15%、分からない22%である。が、区学力調査においては、本校の学力は上昇傾向を継続しており、総じてAB層が半数を超えている。生徒は皆、可能性の塊であり生徒の可能性を発見し伸ばし、人生の選択の幅を広げるため、今後も学力向上を強力に推し進めていく。また、学力の定着に工夫改善していく。そこで、GIGAスクール構想に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の授業実現をより一層進め、ICT機器を利活用しながら個別最適化学習や協働的学習を充実する。こうして、学校全体のコーチング力を高め、アウトプットに重点を置いた授業を進める。更に、基礎確認テストを3学年は年6回、1、2学年は年4回実施する。また、朝学習の充実を図り、授業ではAI学習ソフト等の教材教具を活用する。また、家庭学習の支援を進めながら、学力定着を図り生徒の</p>	B	A

様式 4

		進路実現力を強化する。区学力調査や都・国の学力調査等において、標準スコアや平均正答率を区内上位になるように、より一層上昇させ、E層の減少、BC層の増加、A層の更なる増加を目指す。どの生徒も取り残すことがないように留意し、今までできなかったことが段々でできるようになること、更に、今できることがさらにできるようになることで学力向上を図り、探究心や協調性、自己肯定感等の非認知能力の高揚にさせていく。		
○特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	「誰一人取り残さないように生徒の心に寄り添う」を方針として、特別支援教室校内委員会を中心に、巡回指導教員と連携して特別支援教育の指導体制を確立していく。また、特別支援を必要とする生徒には、日常の学校生活や学習を通じて、ソーシャルスキルトレーニングの視点で社会的な自立力を育成する。そのためには、通常学級の教員に、LD、アスペルガー、ADHD、その他の特別支援教育についての理解を特別支援学級教員とともに深めていく。更に、副席対応を含む、生活指導上の情報については校内ネットを活用して情報共有し情報連携を進め、行動連携まで高めていく。GIGAスクール構想に則り、タブレットを利活用した学習によりオンラインでコミュニケーションを図る。ミライシート、問題データベース、キュービナ、タブレットドリル等のソフトを活用し、理解度が進まない、学習の仕方がわからない生徒、板書が苦手な生徒、D層、E層の生徒にも1人1人にコーチングの手法で対応する。こうして、誰一人取り残さないように配慮しながら、特別支援の必要な生徒に、円滑な行動と人間関係を構築できるように、コミュニケーション能力を高め支援をする。また、ゆうあい教室やSSRの充実を図る。	B	A
○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組んでいるか。	B	肯定的評価は59%、否定的評価は17%、分からない24%である。コロナ禍の影響が晴れつつあり、職場体験が復活した。経済界から経営者の方に来て頂き、職業の意義についての講義やマナー講座を実施した。また、全生徒が高校進学を希望しており、進路指導の充実を図るため、人間としての生き方やあり方を考えさせるようにするとともに、個々の生徒に進路実現力の育成を進める。そのためには、学ぶことの大切さと喜びを感化しながら、学力向上と定着、道徳教育の工夫、二者面談・三者面談、1学年でのスクールカウンセラーによる全員面談等を行う。また、キャリア教育として、職場体験、オリパラ教育、がん教育等を行う。こうして、将来に夢や希望、志を持つ活力の育成を図る。	B	B
○教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行っているか。	B	総じて肯定的評価は78%、否定的評価は16%、分からない6%である。GIGAスクール構想に基づいた校内研修を充実発展させ、アウトプット授業の実現を図り、個別最適な学びと協働的な学びを推進して、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう主体性を	A	A

様式 4

		育成する。更に、「教師の命は授業」を合い言葉に、感動を喚起する授業を目指す。年間指導計画と評価計画を充実させ計画的系統的に指導と評価の一体化を図るように、OJTとOFF-JTを進める。こうして、教員の指導力と授業力を磨き、学力向上、体力増進と健康保持、思いやりの心を涵養する。		
	学校関係者評価委員会の意見等	○ 数学の授業を見学させていただきました。生徒さんは上手にタブレットを使用し、時にはグループ分け等、先生は一人一人のノートを見ながら様子を見て歩く等、いろいろと工夫している様子が分かりました。生徒ができるごとに自信をもち学力が伸びることを期待しています。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	○いじめ、不登校の予防や解決に向けた組織的な取組を行っているか。	B	肯定的評価は59%、否定的評価は17%、分からない24%である。「生徒の心に寄り添い、誰一人取り残さない」を指針として、いじめ・不登校課題の克服をするとともに、問題行動を防止して、健全育成を進める。特に、いつでもどこでも、いじめや問題行動は発生しうることを前提とし、未然防止を進めるの学校態勢を組む。更に、いじめ防止アンケートを年3回実施し、いじめの実態や生徒の悩みを把握する機会とし、生徒が1人で悩みを抱え込むことがないように教育相談態勢を充実させる。いじめやトラブルの早期発見・早期解決するように、企画推進会議を中心に学校が一丸となり迅速に対応する。そのためには、全教職員で情報連携と行動連携を図る。家庭訪問、夜間登校、別室登校、面談等を行うとともに、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、ステップ・サポート学級、その他児童相談所等の関係諸機関と連携する。不登校生徒等とのコミュニケーションを図りながら対策を強化する。	A	B
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育に取り組んでいるか。	A	肯定的評価は76%、否定的評価は10%、分からない14%である。「あじみそ、あじみこし」、すなわち、挨拶・時間を守る・身だしなみ・掃除・言葉使い、姿勢等は基本的な生活習慣を確立するために必須である。このことを生徒・保護者・学校・地域の共通理解として、望ましい人間関係や思いやりの心の涵養を進める。更に、学校生活の中で円滑な教育活動を展開するためには、規範意識・モラルが必要であり、適切な校則の運用と内容について、生徒をはじめ保護者に理解を得るようにする。また、道徳教育をはじめ、教育活動全体や学校生活の中で、思いやりの心を啓発していく。特に、教科道徳において、生徒と教師が共に、心の内面で考え、葛藤し、心の琴線に触れ、人間としての在り方生き方を考え、道徳性の涵養を図る。校則の見直しも組織的に主役めていく。	A	A
	○危機回避能力の育成や子供の安全を確保す	A	施設・設備に瑕疵があるかどうかの点検をはじめ、生活安全、交通安全、情報安全、災害安	A	A

様式 4

	<p>るための取組を行っているか。</p>		<p>全の4つを柱として生徒の安全確保の取組を進める。特にセーフティ教室の充実を図るとともに、薬物乱用防止教室、救命救急講座、避難訓練、交通安全教室等を実施する。更に、食物アレルギー対応、アナフィラキシーショックの防止、熱中症予防等に万全を期し安心安全を第一に学校生活を送り学業に専念する学校態勢を整備する。</p>		
	<p>○学校は、保護者や地域からの意見・要望を把握し、教育活動の点検と改善に役立っているか。</p>	B	<p>肯定的評価は57%、否定的評価は10%、分からない33%である。保護者会、三者面談、保護者アンケート、生徒の振り返りアンケート、学校関係者評価等を行い、意見や要望を把握するとともに、本校の生活指導や学校の教育活動への理解と協力を図りながら、学校生活の中で、生徒が悩みを1人で抱え込まないように留意し、常に生徒の心に寄り添うこと、誰一人取り残さないことを基本方針として、学校の指導態勢を充実させる。</p>	B	B
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<p>○ 体育館では救命救急の授業。生徒さんが AED の仕方を学んでいる様子に頼もしく思い、安心しました。</p>			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	<p>○経営方針に基づいた、組織的な教育活動や学校運営等を行っているか。</p>	A	<p>肯定的評価は82%、否定的評価は12%、分からないが7%である。主幹層、主任層、事務職から成る企画推進会議を学校組織を牽引する要としながら、最重要課題を実現するための組織である経営推進支援部を新たに設立する。この企画推進会議と経営推進支援部の2つが、学年間、教科間、分掌間を補完し相互に連携する取組を進める。ただし、経営推進支援部を企画推進会議の上位に位置付ける。こうして、リアルタイム、かつ、迅速に、課題解決に効果を上げるようにする。更に、企画推進会議の主幹層・主任層のモチベーションを高め、校長の経営方針を学校全体に浸透させる役割を持たせ、ミドルリーダーシップを発揮させる。</p>	A	A
	<p>○子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価を適切に行っているか。</p>	B	<p>肯定的評価は59%、否定的評価が17%、分からないが24%である。生徒による学校生活や授業反省アンケート、学校評価、保護者による学校評価アンケート、学校運営連絡協議会による学校評価等を実施し、RPDCAサイクルに則して、具体的な生徒の実態に応じた教育方針を設定する。</p>	B	B
	<p>○適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。</p>	B	<p>GIGAスクール構想に基づいて配布されたタブレット端末やその他のICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びの授業実現を工夫する。また、コロナ禍に対応しオンラインの連絡、オンライン授業、コミュニケーションを進める。更に、また、体育館に全面配備されたエアコンを活用し熱中症対策とし、体力向上の活動に資する。</p>	A	B
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<p>○ 現在、オンライン授業はどのような時に活用されているのでしょうか？</p>			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成	改善策	自己評価	改善策に

様式 4

		状況		について	ついて
	○教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組を行っているか。	B	教育活動等の方針をはじめ、各学年、学級の取組や教育活動の様子を、コクー、学校HP、学校だより、学年だより等で発信するとともに、学校配信情報メールを適宜、有効活用していく。修学旅行、野外体験活動、スキー教室などの宿泊行事における生徒の様子をリアルタイムにコクーで発信していく。	A	A
	○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	コロナ禍が晴れた中、ポストコロナの活動を工夫して、ますます一層、活発な教育活動を展開していく。PTA、学校運営連絡協議会、本所地区青少年育成委員会と情報連携を行い本校の教育活動に理解と協力を得るように推進していく。更に、防災対応として避難所運営会議の設立を行い、防災対策を盤石にしていく。	A	A
家庭・地域連携	学校関係者評価委員会の意見等	<p>○保護者のPTAの理解が薄れている中で協力を得るのは難しくなっています。学校と本部がさらに協力し、教育活動を円滑に進めるよう保護者に発信する工夫が必要かと思います。</p> <p>【その他の保護者による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「わが子は学校へ行くことが楽しいと思っている。」肯定的評価85%、否定的評価13%、分からない2% ○「わが子は学校で自分の良さを発揮して成長している。」肯定的評価78%、否定的評価18%、分からない4% ○「わが子は本所中学校を「良い学校である」と思っている。」肯定的評価75%、否定的評価16%、分からない9% ○「教師は保護者との連絡を密にし、相談に乗っている。」肯定的評価58%、否定的評価25%、分からない17% ○「教師は学校への訪問時や電話の際に親切に対応している。」肯定的評価84%、否定的評価8%、分からない8% ○「全体として本所中学校の教育に満足している。」肯定的評価78%、否定的評価16%、分からない6% ○ 1年間学運協に参加させていただき有り難うございました。参加させていただき、より詳しく学校の目指すところがわかったように思います。保護者だけではなかなか伝わらないこともあり残念です。学校での活動も先生方の異動がある中で続けていく難しさはあると思いますが、引き続きしっかり行い、同じ反省点がないようにして目標達成に近付けて頂きたいと思います。 ○ いろいろな場所で本所中学校の評判が良いことはとても嬉しいです。 ○ 特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切に支援の行っていることに、地域の一員として温かい指導態勢に高い評価と感謝をしています。 ○ 「本所中学校は良い中学校である」に対して、否定的な評価が1 			

様式 4

	<p>6%というのは、少々気になるところである。この分析（良い、悪いも含めて）をいろいろな方法であぶり出してみるのも今後の学校の経営方針を立てるのに、特に、教諭諸氏へのアピールの点で大切だと思う。また、「分からない」9%の回答も気になる。9%の中味が何を意味するのか分析してみることも必要かも知れない。PTAの本音を引き出すのは至難の技かも知れないが、必要なところだと思います。上を見るのはキリがないが見るのを止めると途端に下降する。従って、常に上を目指しながら日々歩むことが大切だと考えます。教育の仕方に「これで良い」という終わりはないと思う。日々の授業でも「これで十分」とか「こんなもんだろう」等と考えるのは退歩に通じると考えます。</p>
--	--

2 令和5年度学校評価のまとめ

令和5年度は、コロナ禍が晴れ、学校行事をはじめ、学校の教育活動がリニューアルした形で回復してきました。特に、運動会や文化祭、また、修学旅行、スキー教室、野外体験活動などの宿泊行事が実施でき生徒の生き生きとした表情が学校中に満ち溢れていました。

令和5年度は、「何としても、学力・体力・思いやり、そして、豊かな感性を磨き高める」を学校組織の合い言葉とし、校訓「学びあう」のもと、教職員が一丸となって教育目標の具現化に取り組んできました。学校経営推進支援部が牽引役になり、GIGAスクール構想のもと、コーチング授業の視点で、個別最適な学びと協働的な学びを推進しました。

令和5年度における学校経営上の最重要課題は、確かな学力の向上と学力の定着でした。令和4年度に引き続き、各種学力調査や基礎確認テストにおいても数値的な面においても成果を上げ続けています。本校の生徒は確実に一步一步、学力の向上を実現しています。学力向上策は、単に、生徒に「点取り虫」になることを求めているものではありません。生徒は皆、可能性の塊です。その可能性を発見し伸ばすために学力の向上と定着が必要不可欠です。学校は、生徒にとって、すべての教科の授業や学校生活、学校行事の中で、失敗しながらも、段々とできるようになり、今までできなかったことができるようになる、また、今までできたことがもっともっとできるようになる、そういう喜びを見出すところです。ここに、感動する授業をはじめ、教育活動の源泉があります。そして、これからの生涯学習社会において、たくましく自己実現をする土台を作るため、真の学力の向上と定着が求められています。真の学力とは、数値で測れる認知力と数値で測れない非認知力の両方の側面があります。簡潔に言って、基礎的・基本的な知識技能や思考力・判断力・表現力など、数字で測りやすい認知能力、更に、学習意欲や学びに向かう力、人間性などの数値ではなかなか測りにくい非認知能力の両方を育成することが一層重要になります。そのためには、授業において、教え込み授業からコーチング授業への授業改善が必須条件になります。この方向性で、令和6年度において、真の学力の向上と定着を推進していきます。

認知力においては、区学力調査、並びに、基礎確認テストでは、どの学年もどの教科も概ね平均正答率や標準スコアは全国・都・区の平均を大きく越えています。本校の学力の特長として、どの学年もA層の合計が半数を占め、平均層であるC層は少ない傾向であり、DE層は若干という傾向にあります。それでも、教科によっては、学年が進行するにつれて、AB層が若干の減少傾向があり、DE層が微増

様式4

傾向を示すことがあります。そのため、DE層をC層に、C層をAB層にしていくようにコーチング授業を推進していくことに今後の課題があります。けっして、DE層の生徒を切り捨て、AB層の生徒だけを伸ばそうとしていることではありません。A層・B層・C層・D層・E層のすべての生徒が理解度を深める、今までできなかったことができるようになる、分からなかったことが分かるようになる、その喜びを生徒が体感し、生徒の可能性を開花させるために学力向上と定着の施策があります。

学校経営推進支援部を中心にコーチング授業を推進し学力の向上定着を図りました。その結果、1学年では、A層が7%から21%に増加、E層が20%から2%に減少、AB層は最大57%、2学年では、A層が8%から16%に増加、E層が7%から5%に減少、AB層は最大60%に達しました。3学年では、3年間で、A層が最大幅が5%から26%に増加、E層については、1年次は0%もあったものの、最大17%から平均4%に減少した。AB層は最大58%、平均45%でありました。更に、標準スコアでは、1・2学年は、全教科とも平均50以上ではありましたが、2学年の社会科が50を下回ることがありました。3学年については、社会科を除く全教科は平均で50を越えましたが、社会科だけが常に50を下回りました。特に、社会科について、学力を定着するための指導態勢に大きな課題が残りました。

5科をはじめ、他の実技4教科で、全校態勢でコーチング授業の工夫を行うことができました。しかしながら、今後、社会科を含め、AI学習ソフトの一層の利活用や問題解決学習のますますの浸透を進め、GIGA授業における個別最適な学びと協働的な学びの指導態勢を充実発展させていいきます。

数値的な学力である認知力については、特に3学年の平均値では、ABCDE層の各分布は、令和2年度、令和3年度、令和4年度、令和5年度の5カ年において、卒業生の進路状況とかなりの相関を示しており、今後も進路指導資料として利活用していいきます。

令和2年度から、アウトプット授業を中心に感動を喚起する授業を目指してGIGAスクール構想に基づきタブレット端末を利活用した、コーチング授業を実施しています。本校生徒は、素直で明るいという本校生徒らしさをよく発揮し、学業によく励みます。上記の数値的な結果は、このような成果の現れだと考えます。

不登校生徒については、昨年度よりも減少しています。今後も、生徒の心に寄り添う、誰一人取り残さないを学校組織の合い言葉として、個別対応を中心とした取組を継続していいきます。また、いじめ対応については、いじめはいつでも誰にでもどこでも起こり得るということを前提として、未然防止、早期発見、早期対応、早期解決の学校態勢を継続していいきます。

次年度に向け、引き続き、安全安心をすべての教育活動の基盤としながら、学習指導をはじめ、生活指導・進路指導・学校行事等の工夫、人権尊重の指導体制の充実、いじめ・不登校対応の充実、校則の見直しなど、あらゆる教育活動において、「誰一人取り残さない、心に寄り添う」を合い言葉として、「心豊かに、たくましく」の教育理念を具現化し、活発な教育活動を展開していいきます。

以上の通り報告いたします。

墨田区立本所中学校 校長 松井 隆